

レポート体験記

「西洋史の見方」では、何人かの受講生がレポート作成体験記を書いてくれました。そのなかから医学部Cさんの体験記を紹介します。なお、講義は「中世を生きた人々」というテーマで、西洋中世の人物を11人紹介しつつ、中世という時代・社会について話しました。期末レポートは、西洋史上の人物をひとり選び、「誰々とその時代」というテーマで書いてもらいました。

井上浩一

「西洋史の見方」レポート作成体験記

医学部 Cさん

はじめに

今回「西洋史の見方」を受講し、課題レポートに取り組んだ。私がこの科目を受講した理由の一つに、レポートの書き方について指導をしていただけるということもあった。受講して、期待通り丁寧に指導やアドバイスをいただけ、とても勉強になった。そこで、レポート作成にどのように取り組んだかをここにまとめる。

1、予備調査

授業の中で、学術情報センター（図書館）での演習があった。その前の回の授業で『レポート作成の手引き』をいただき、そしてレポートの作成についてのビデオ『レポート・論文作成法—誰にでも書ける10のステップ』を見た。この2つで、大体のイメージがつかめ、自分が何をしたらいいのかを知り、演習に臨むことができた。『レポート作成の手引き』には、レポート作成の過程において、学生がいき詰まりそうな点についても、アドバイスが書かれており、とても参考になった。これらの予備知識をもって、演習に臨んだ。

演習では、検索の仕方を習い、その後レポートのテーマにする人物について、検索した。始めどのような人物を選択していいかわからなかったが（事前にいろいろ候補を考えていったが）、演習では先生や大学院生の方がアドバイスしてくださり、ようやくテーマとなる人物を決められた。検索の方法としては、先生から『西洋史辞典』を見せていただいたり、演習で習った「Yahoo 百科事典（日本大百科全書）」を用いて行った。また、大学院生の方から「この時代にはこのような興味深い人物がいますよ。」と直接的な助言がいただけて、とても参考になった。そして、やはりレポートを書くには、自分がその人の人生や時代に興味・関心が持てる人物でなければその世界に入り込めないと考え、興味・関心の持てる人物を選択した。その後、先生にこの人物でレポートを進めていいかを確認し、人物を決定した。レポート作成で、この過程がすごく悩むところだと思うのだが、演習のおかげで、悩みを解決しながらテーマを決定できた。学術情報総合センターでの実習は希望制であったが、参加し

て本当に良かった。

2、文献調査・収集

学術情報センターの演習で、文献検索と収集について教えていただいた。演習中には、時間がかかって文献検索はできなかったが、方法を教えていただいたので演習の後に、自分で文献検索を行った。「あるのかなあ」と心配だったが、テーマの人物についての文献はすぐに見つけれられた。そして演習の後に、さっそく4冊の本を借り、それを読むことから始めた。

3、レポート作成

文献を読むことに時間がかかったが、文献によっては人物の捉え方が多少異なり、大変でも数種類の文献を読み、判断することが大切だと思った。文献を読むだけで2週間弱かかったが、しっかり文献を読むことで、あとのレポート作成に役立ったと思う。

文献を読んだ後に、時代背景がその人物の人生の転機や行動の理由となった点に着目し、レポートの骨組ともいえる「章立て」を行った。これによって、レポートの書きたいことや必要なことが整理でき、この作業は文章を書き出す前に重要なことだと改めて気づいた。そして、章ごとに文章の構成を考えていった。文献をしっかり読んでおいたので、ポイントがつかみやすかった。レポート作成では、テーマの決定や文献検索が非常に重要な過程であることがここでもよくわかった。

文章の書き方は、先生が授業中に紹介してくださった『日本語の作文技術』（本多勝一著）は、具体的に分かりやすかった。文章が伝わりやすいように、できるだけ文章が長くならないように、また、修飾語の使い方にも注意しながら下書きを行った。そのとき、ワープロで書いておくと、文章の修正が行いやすかった。下書きが終わった後、3回文章を見直し、余分な語句や文章を推敲していった。読み直すごとに修正を加え、スマートな文章にできたと思う。そして、「はじめに」と「おわりに」がきちんと対応した関係になっているか確認し、清書とした。引用・参考文献も重要で、先生の授業プリントの文献紹介の欄を参考にしながら書くことができた。これらの過程を終えたことで、苦手意識の強かったレポート作成に少し自信を持つことができたと思う。

おわりに

レポートを書く際にとてもイメージしたことは、先生の授業における時代背景を捉えながら、その人物を理解するという方法だった。授業では、今までに受けた歴史の授業とは違い、人物と時代に焦点を当てられており、とても興味を持てた。その方法をイメージすると、人物とその時代背景についてレポートが書きやすかった。

「西洋史の見方」のレポート作成においては、まず先生の授業をしっかり聞くこと、そして、進んで学術情報センターの演習を受けることがとても重要だと思う。